

## 第 8 回圧力設備規格審議委員会 議事録(案)

1 日 時: 平成 21 年 6 月 30 日 (火) 10:00~11:30

2 場 所: 溶接学会会議室

3 出席者: (敬称略)

酒井委員長(TEC), 佐藤副委員長(日揮), 青木(東電), 石毛(IHI), 加藤(住友ケミカル/石丸委員代理), 内野(東ガス), 緒方(電中研), 辻(電機大), 上野(ガス協会), 佐々木(安研), 能登(千代田), 田原(石連), 下村(日立), 樋口(IHIソリューションズ), 石川(横河)

事務局: 河野、田中(HPI) 以上 17 名(委員数 15 名)

4 資料番号: 圧力設備規格審議 8

- 1 第7回圧力設備規格審議委員会 議事録案
- 2 圧力設備規格審議委員会 平成21・22年度委員名簿
- 3-1 圧力設備規格審議委員会 書面投票結果、委員のコメント又は意見及び対応案表 (HPIS A102:2009)
- 3-2 圧力設備規格審議委員会 書面投票結果、委員のコメント又は意見及び対応案表 (圧力設備規格審議委員会規則)
- 3-3 第46期第6回理事会議事録案(抜粋)
- 4 HPIS Z105に寄せられた意見に対する対応
- 5 HPIS A102:2009 日本高圧力技術協会規格作成基準改正要望表 r2 090603
- 6 HPIS A102:2009 日本高圧力技術協会規格作成基準修正案 新旧対照表 r0

5 議事

酒井委員長の司会のもと、はじめに新任の委員長、副委員長、交代委員および代理出席の方々より自己紹介があった。また、出席委員数が委員会成立の定足数を満たしていることが報告され、以下の議事が進められた。

5.1 前回議事録の確認

資料 8-1 により、前回議事録案が読み上げられ、一部脱字修正の上、全員一致で承認された。修正点は次の下線部を追記する。「5.2 圧力設備規格審議委員会書面投票結果及び・・・」

5.2 圧力設備規格審議委員会書面投票結果及び理事会審議結果報告について

資料 8-3-1 によって、事務局から HPIS A102 日本高圧力技術協会規格作成基準に対する書面投票結果が報告された。投票総数は 23 票で書面投票は成立し、賛成投票数は 22 票で可決の決議となった。

資料 8-3-2 によって、事務局から圧力設備規格審議委員会規則改正案に対する書面投票結果が報告された。投票総数は 24 票で書面投票は成立し、賛成投票数は 24 票で可決の決議となった。規則については、運用過程で不具合が生じ検討が必要になってくる。検討した内容は、運用解釈として議事録に残し、定期的な見直しに生かすようコメントがあった。

なお、上記の書面投票結果報告書中の投票種別の表書式について意見があり、以下の書式に

改められた。投票数欄下の棄権は投票棄権とし、備考欄の備考を改め、棄権(無投票)とする。

資料 8-3-3 によって、事務局から上記二つの案件について理事会でいずれも承認されたことが報告された。

### 5.3 パブリックコメント実施結果報告と対応案の審議について

資料 8-4 によって、辻委員(STOP 委員会メンバー)から HPIS Z105 に対するパブリックコメントの実施結果として提出された意見(5 件)とその対応内容について報告された。表中の整理番号 1 における対応内容の“高温”の解釈説明等について委員より次の主な意見が述べられた。

- ・ 高温の定義について、コメント側の主旨を記し、対応側の考え方の説明をするよう書き方を検討してはどうか。(高温の定義については、狭義、広義等いろんな使い方がある)
- ・ “温度範囲については、あいまいになっている。”の下線部分は記載しない方がいい。(EX. 常温を超える範囲を一般的に高温として使われている)
- ・ “著しい不利益を与えるとは考えられない。”という解釈表現は削除した方がよい。

審議の結果、対応内容の主旨については了承するが、整理番号 1 の対応内容の文面については、コメント側の意図を汲み、上記委員のコメントを考慮して修正することとし、修正文については、委員長一任とすることを条件に対応案の挙手による採決が諮られた。全員一致で承認された。

また、HPIS C105 のパブリックコメントの結果については、意見がなかったことが報告され、了承された。

### 5.4 HPIS A102(日本高圧力技術協会規格作成基準)について

事務局より、資料 8-5、8-6 について報告された。HPIS A102 ; 2009 版は既に出版されているので、資料 8-6 を新旧対照表改め正誤表として HPIS A102 に挟み込み発行することで了承された。尚、今後正誤表はホームページ上で更新される。

内野委員(元規格作成基準改正原案作成 WG 委員長)より、この種の正誤表で対応すべき項目は今後とも出てくる。WG は制定した時点で解散となるため、その後のメンテナンスは事務局で対応案を検討、作成し、直接、審議委員会に諮って審議することが提案され了承された。また、改正が必要な場合は WG を設ければよいとの意見が述べられ、了承された。

## 6 次回委員会予定について

事務局にて、9月2日または10日の13:30~で調整することになった。また、次回委員会のテーマとしてRBM委員会より審議依頼が予定されている規格“RBMガイド”等については、事前に目を通していただくため、各委員にCD版を配布することになった。

以上